

【重要】 パリ大会のお知らせ

経営史学会会員各位

本年夏にパリで開催されますヨーロッパ経営史学会（EBHA）と本経営史学会の共催の大会につきまして、研究報告の応募をかねてよりお願いしておりましたが、2月1日に応募が締切られました。その後、2月10日および11日にパリでプログラム委員会が開催され、EBHAからは会長のシュレーター・ノルウェー・ベルゲン大学教授、大会主催者のフリーダンセン社会科学高等研究院（EHESS）教授、イタリア・ボッコーニ大学のポレーゼ博士、ドイツ・経営史研究所のピエリ博士の4名、日本から東大の和田一夫先生と私の2名が出席し、セッションも含めて約250件の応募書類を精査して、プログラムの大筋を作成しました。正確な数は把握しておりませんが、個人報告、セッションでの報告を含めておそらく100名近くの日本人が応募して下さり、その大部分は経営史学会会員と思われます。皆様の積極的なご応募にまずは厚く御礼申し上げます。

ただ、パリ大会は8月31日と9月1日の2日間で、当初8会場で2日計8時間帯、すなわち計64セッションが予定されていましたが、報告希望者が総じて予想外に多かったため、主催者の御高配により、2会場が追加されました。それでも80セッションで、また、今回は1セッションが原則として4報告から構成されることになりましたので、日本人、外国人を問わず、応募者全員にご報告いただくことは不可能となりました。会長として皆様に様々な機会に応募を呼びかけながら、ご期待に必ずしも沿えない結果となり、まことに心苦しいところではございますが、事情をどうかご理解下さいますようお願い申し上げます。以下、もう少し具体的にご説明申し上げます。

- 1) 3月中旬頃までにご報告の採否の連絡、および司会またはコメンテータの依頼の連絡がEBHAから皆様に個別に届きます。
- 2) 報告が採択された場合には、7月15日までにご報告の完全原稿をEBHAパリ大会事務局に必ずご送付ください。原稿を送付していただきませんと、コメンテータが十分なコメントをできず、大会の意義を低める結果となります。
- 3) 報告等の有無にかかわらず、参加される方は、EBHAパリ大会ホームページにレジストレーション（参加登録）の情報が掲載されておりますので必ずご覧の上、早めに手続きをお進め下さい。6月30日までに手続きを終えまないと料金が高くなります。（ここでいう6月30日はパリの現地時間です。）なお、EBHA会員か否かで同上料金に差がありますので、ご注意ください。

4) 宿泊につきましても EBHA パリ大会ホームページに情報が掲載されているので、それを参考にできるだけお早めにご自分で手配をお願いします。そこに示されているのは今回の EBHA 大会参加者用の割引料金です。大学院生の場合、施設によっては 5 日で約 1 万円という格安料金もあります。いずれにせよ部屋数が限られていますので、可能な限り早くご予約下さい。

5) 今回の大会では、大学院生をはじめとする若い方々にできる限りに多く発表してもらいたいという方針が最初に定められ、“Emerging Scholars” Session が設けられたため、多くの大学院生の報告が、そこに振り分けられております。

6) 今回の大会では、1 セッションの人数が 4 名とされ、個別の応募については、4 報告を集めてセッションに編成する（つまり、あるテーマをプログラム委員会がそのセッションにつけて、コメンテータが可能な限りセッション全体と関連づけながら個別報告についてコメントする）関係で、ほかの報告との関連をなかなかつけがたい場合があり、残念ながら報告していただけない場合がありました。

7) 最初からセッションを構成して応募された場合、できるか限り採択する方針でしたが、多数の応募があったため教室などの確保などを考え、大会のテーマに関連が薄い場合などには採択されない場合もありました。

8) 採択された論文であっても、タイトルの印象が全体のテーマからかけ離れた印象を与えかねないためにタイトルの変更を求められる場合などがあります。そうした連絡があった場合は個々人でご対応下さい。

以上、ご連絡申し上げます。

経営史学会会長 阿部 武司